NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成22年（2010）11月10日
No. 35
発行　高津啓洋

COP10 名古屋宣言で終了

愛知県名古屋市で先月１８～３０日に開かれていた生物多様性条約の会議「ＣＯＰ１０」（コップ・テン）で、「名古屋議定書」などが採択され、生物の絶滅を防ぐための取り組みがまとまりました。

「生物多様性条約」は、地球上に暮らす様々な生き物を絶滅から守ろうという目的で１８年前につくられた、国際的な約束です。現在、１９０を超える国と地域が条約を交わし、それらの国の代表が集まって開かれた１０回目の会議が、今回のＣＯＰ１０でした。

地球上には、小さな微生物、動物、植物など、数千万種ともいわれる多種多様な生物が暮らし、それらが複雑につながりあって自然環境すなわち、生態系のバランスが保たれています。例えば、微生物が分解して豊かになった土に樹木が育ち、その実を

動物が食べます。

私たちの生活も、魚や肉、穀物、野菜などの食べ物や医薬品、着る物、住む家まで、生物のおかげで成り立っています。しかし、限りある生物をとりすぎたり、生物が暮らす森林を破壊したりして、地球上では毎年、４万種もの生物が絶滅し、そのスピードはどんどん速くなっていると言われています。

そのため、生物が暮らす環境をどうやって守ればいいか、方法を話し合って決めることが、今回の会議の目的でした。

先進国 対 途上国の対立

先進国の企業は、世界各地で探し出した生物を研究し、新しい薬や化粧品、食料品などを作り出していますが、そうした生物の資源は途上国に集中しています。だから、生物を守るためには、取りすぎないのはもちろんですが、途上国で生物が暮らす自然環境を守るために、先進国がお金や技術の面

で協力することが大切です。

しかし会議では、そうしたお金の協力などのルールを決める段階で、先進国と途上国との間で意見が大きく食い違い、対立しました。

途上国には、先進国によって自分たちの国の生物資源が持ち出されてきたという不満があります。だから、ヨーロッパの国々がアジアやアフリカを植民地にしていた何世紀も前の時代までさかのぼって、先進国が得た利益を返すべきだと主張しました。しかし先進国はそんな昔のことでお金は払えないと反対しました。

このため会議は物別れに終わるかに見えましたが、最後に、議長を務める日本の松本龍環境相が案を出し、それに先進国と途上国とが歩み寄る形で「名古屋議定書」としてルールがまとまりました。

ルールでは、先進国が昔にさかのぼってお金を払うことはありませんが、これからは先進国の企業が途上国の動植物や微生物を使って薬や化粧品などをつくった場合、得られた利益を、途上国と公平に分け合うことになります。

会議ではこのほか、２０１１年から２０年までの間に「生物多様性の損失を止めるための行動を起こす」という世界全体の共通目標も定まりました。ここで決まったルールや目標をそれぞれの国がしっかり実行し、地球上から自然の恵みが失われないように取り組んでいかなければなりません。

次の会議は2012年インドで開催予定です。

（写真は南米で絶滅が心配されている動物たち・私達の植樹地域に現れたものです。はじめからアルマジロ・手乗り鹿・カピバラです）

家庭・企業で400本の森

パンタナールに家庭や会社の森づくりに挑戦して見ませんか。400本で地球温暖化防止のための貢献を。現在ニームの木を中心に、森が出来てきました。さらに、多くの方々からの協力をお願い致します。右の写真は、黄花イペーです。毎年9月末に開花します。

[お知らせ]11月20日、21日名古屋支部で高津理事長のセミナーが行われます。参加希望は直接名古屋支部、山本支部長まで。☎052-896-6537